

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.88

成田市立図書館だより 第88号

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<https://www.library.city.narita.lg.jp>

2019年（令和元年）11月1日発行

☎ 0476-27-4646（自動応答）

0476-27-2000（直通）

FAX 0476-27-4641



今年の成田ふるさとまつりにあわせ、図書館正面玄関前にブースを設け、開館35周年記念連続講座において参加者で作ったマップや未来の図書館のアイデア等を展示しました。またワークショップの成果発表も行い、実際に参加した方々にインタビュー等を行いました。

（紙面紹介）

・特集『開館35周年記念講座』

「これからの図書館を考えよう - 成田市立図書館の未来 -」と題し、全3回に渡り講座を開催いたしました。今回は各回における講座の様子についてご紹介します。

・科学あそび講座『DNA ってなんだろう～ DNA をとりだそう、二重らせんストラップを作ろう～』

2019（令和元）年7月25日に開催された科学あそび講座の様子をご紹介します。

開館35周年記念講座

「これからの図書館をかんがえよう —成田市立図書館の未来—

成田市立図書館は1984(昭和59)年に開館し、今年で35周年を迎えました。開館当時と現在では、図書館を取り巻く環境は大きく変化しました。そこで、成田市立図書館の未来の姿を、市民の皆さんと一緒に考える講座として「これからの図書館をかんがえよう—成田市立図書館の未来—」を開催しました。全3回に渡って行った講座の様をお伝えします。

2019.4.27(土) 第1回 講演とシンポジウム

第1部 講演「これからの公共図書館の役割とこれからの図書館のすがた」

アカデミック・リソース・ガイド株式会社 (ARG) の岡本真氏を講師に招き、「これからの公共図書館の役割とこれからの図書館のすがた」と題した講演会を行いました。岡本氏が訪れた優れたサービスを提供している図書館を例に挙げ、公共図書館が担う役割とこれからの図書館の姿について話していただきました。

現在、図書館の役割は変化してきており、交流と知識を創造する図書館が求められているとのことでした。また、市民が図書館をどうしたいか、当事者意識を持って行動していくことの必要性が語られました。



講演の様子

第2部 シンポジウム

「成田の未来と未来を支える図書館を考える」

『その情報はどこから？ ネット時代の情報選別力』の著者でジャーナリストの猪谷千香氏、元成田市立図書館司書・元高月町立図書館長の明定義人氏、図書館協議会委員長の野村豊氏、教育長の関川義雄をパネリストとして迎え、「成田の未来と未来を支える図書館を考える」と題したシンポジウムを行いました。シンポジウムは、参加者から事前に集めた質問に対し、パネリストが考えを述べていくという形で進められました。

「今まで見てきた図書館の中で最も心に残ったところは？」という質問には、「雰囲気、司書、本などから、何がしたいかという主張が表れている図書館が素敵だと思う。伊万里市立図書館は、空気が違うように感じられて心に残っている」などの意見があがりました。

岡本氏はまとめとして、「成田市の図書館の未来は成田市の未来に繋がる。ぜひ、図書館に関心を持って欲しい」と述べていました。



シンポジウムの様子



2019.6.16(日) 第2回 ワークショップ

「地域と図書館の<いま>を調べよう！考えよう！」

第1回目の講演とシンポジウムに引き続き、ARGの岡本真氏と李明喜氏をファシリテーターに招き、「地域と図書館の<いま>を調べよう！考えよう！」と題したワークショップを行いました。本館2グループと公津の杜分館1グループに分かれ、地域の<いま>を知ることを目的に、まち歩きをしました。

本館グループでは「図書館と公民館や赤坂公園などの他の施設との連携が取れていない」「歩道橋を利用せずに道路を横断する人が多く、危険である」といった意見が出ていました。公津の杜グループでは「隣接する公園と繋がっておらず、遠回りになってしまい不便である」「駅前のスペースが十分に活かされておらず、もったいない」といった意見が出ていました。

まち歩きをしたことで、普段は気が付かないような発見がありました。李氏は、「図書館のことを考える時に、図書館の中のことばかりを考えるのではなく、その周辺的环境にも目を向けることが大切である」と述べていました。



まち歩きの様子



作成したまち歩きマップ

2019.6.23(日) 第3回 ワークショップ

「地域と図書館の<みらい>を想像しよう！描こう！」

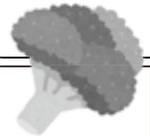
第2回のワークショップに引き続き、岡本真氏と李明喜氏をファシリテーターに招き、「地域と図書館の<みらい>を想像しよう！描こう！」と題したワークショップを行いました。まち歩きで作成した<いま>マップを基に、地域と図書館の未来のストーリーを考え、グループごとに発表をしました。

発表では、「多くの世代の人が集い、交流することができる図書館」「子どもと一緒に、1日中居られる図書館」など、様々な理想の図書館像が挙げられました。

今回のワークショップを通して、図書館の未来を考えることができ、とても充実したイベントになりました。



発表の様子



科学あそび講座



『DNAってなんだろう～DNAをとりだそう、二重らせんストラップを作ろう～』

講師 科学読物研究会 坂口美佳子氏 2019.7.25



細胞について解説してくださる坂口先生

今年度の科学あそび講座は、『DNAってなんだろう～DNAをとりだそう、二重らせんストラップを作ろう～』をテーマに行われました。今年もたくさんの応募があり、今回の参加者は、午前午後合わせて68名でした。

最初に、「細胞」や「DNA」について、クイズ形式で学びました。体をつくるための設計図であるDNAを調べると、ひとりひとりに適した薬を開発したり、新種の植物をつくったりできることがわかりました。また、DNAが二重らせん構造をしていることや、その二重らせんを形づくっている4種類の塩基が、決まった組み合わせで並んでいることを学びました。

続いて、ブロッコリーからDNAのかたまりを取り出す実験をしました。ブロッコリーのつぼみの部分をはさみで切り取って集め、すり鉢を使って細かくします。そこへ塩と洗剤を混ぜた水を加え、ろ過した液体にエタノールを注いで少し待つと、ふわふわと白い糸くずのようなDNAのかたまりが浮かび上がってきました。班のみんなと協力しながら作業をすることができました。

工作では、DNAの二重らせん構造を再現したストラップを作りました。4種類の塩基を模した色ビーズを使い、1段ずつビーズにワイヤーを通します。最後までできたら、らせん状にねじって完成です。細かいビーズを使った作業でしたが、みんな集中して取り組んでいました。

最後に、先生がおすすめの本をたくさん教えてくれました。多くの本が借りていかれ、DNAや細胞について楽しく学ぶ良い機会となりました。

☆参考になる本☆ ※すべて図書館に所蔵がある本です。

『遺伝子・DNAのすべて』 夏緑 / 著 童心社

『遺伝子のひみつ』 フラン・ボークウィル / 文 ほるぷ出版

『みんなもってるDNA』 フラン・ボークウィル / 文 岩波書店

『DNAがわかる本』 中内光昭 / 著 岩波書店

『人体について知っておくべき100のこと』

アレックス・フリスほか文 小学館

『科学者伝記小事典』 板倉聖宣 / 著 仮説社



すり鉢でブロッコリーを細かくする

編集後記

今回は図書館開館35周年記念講座と、毎年好評を頂いている科学あそび講座の模様をお伝えしました。また10月27日に開館記念日を迎える図書館の様子は、次号の「紙ふうせん」でもお知らせします。

図書館では毎年様々な講座を企画しています。興味を引くものがありましたら、ぜひ足を運んでみてください。

成田市立図書館だより	No.88
発行	成田市
編集	成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3	
	☎ 0476(27)2000
発行日	2019.11.1
登録番号	成教図 19-023



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。